



大学院工学研究科准教授/
美(うま)し国おこし・三重さきもり塾副塾長
浅野 聡

あさのさとし
博士(工学)
専門分野は、都市計画、景観計画、協働型まちづくり、防災まちづくり

この記事に関連した情報は以下のアドレスでもご覧いただけます。
▶ <http://www.mie-u.ac.jp/links/research/>

右図／東海道関宿「百六里庭」
(三重県さわやかまちづくり賞【景観部門】受賞)(図1)



地方都市再生のための協働型まちづくり・ひとづくりプロジェクトを実践する。

人口減少や高齢化により、中心市街地、郊外市街地とも衰退が進む中、地方都市には、都市計画の方針転換が求められています。工学研究科では、地方都市再生のために市民や行政と協働でまちづくり・ひとづくりプロジェクトに取り組み、都市計画の策定や人材育成などにおいて、多くの成果を上げています。

「20世紀都市」から「21世紀都市」への転換

21世紀に入り、現在の地方都市は、人口減少、少子化社会、高齢社会、地球環境、自然災害、地方分権といった厳しい社会状況の変化に直面し、新たな対応が求められています。

20世紀の成長時代には、郊外に拡大する数多くの開発プロジェクトが実践されましたが、その総量をコントロールしなかったために、人口や都市機能の分散化を招きました。かつては活気があった中心市街地は、住宅や店舗、病院など諸施設の郊外移転に伴い人口が減少し、深刻な衰退問題に直面しています。また、開発されてからしばらくは活気があった郊外市街地も、将来の人口減少や高齢社会への配慮を欠き、高齢者の生活支援のための医療、福祉、買い物、交通などに関わる諸機能が未整備であったため、老夫婦世帯が急増する中で日常生活に支障が出始めるなど、中心市街地と同様に衰退の危機を迎えつつあります。

このような状況の中で都市計画の最前線で求められているのは、郊外に拡大し続け



伊勢河崎商人館(国登録有形文化財)(図2)



伊勢都市マスタープラン市民ワークショップ
(まちづくりブックの活用の様子)(図3)



左:まちづくりブック伊勢(学芸出版社)
右:まちづくり極意くわな流(中日出版社)(図4)



地域防災学総論Iの講義風景(図5)

た「20世紀都市」から、人口と都市機能を中心市街地に再び集約する「21世紀都市」へと方針転換していくことです。

地方都市再生に向けて、まちづくりの3つを変える

それでは、「20世紀都市」から「21世紀都市」へと方針転換させるためには、何を变えていけばよいのでしょうか。わかりやすく捉えると、まちづくりの3つを変えることが重要であると考えています。

第一に「うつわ」を変える。拡大しすぎた街を、人口減少に対応させて段階的に小さくすることです。既に採算のとれないロードサイドショップやファミリーレストランが閉店され始めており、郊外がゴーストタウン化する前に計画的に縮小することが求められています。第二に「なかみ」を変える。計画内容の質を見直し、経済性や効率性のみを重視するのではなく、歴史・文化・景観・福祉・環境・防災といった視点をまちづくりの計画に復権させ、環境破壊せずに住み続けることのできる質の高い居住環境として再整備することです。そして第三には「プロセス」を変える。従来型の密室の計画と言われないように情報公開し、より広い合意形成のもとで、市民、企業、専門家、行政による協働型まちづくりとなるように、そのプロセスや方法を変えることです。

まちづくり・ひとづくりプロジェクトを実践する

前述の基本方針のもとで、本研究室では主に三重県や県内の市町からの依頼を受け、質の高い総合的な居住環境づくりにつながることを意図したまちづくり・ひとづくりプロジェクトを実践しています。

具体的には、桑名市、亀山市、伊賀市、津市、松阪市、伊勢市、鳥羽市、志摩市、名古屋市などにおいて、集約型都市構造を目指す都市計画マスタープランの策定、城下町や門前町の歴史を持つ中心市街地における文化財や町並み保全のための景観計画の策定、中心市街地における防災・福祉・景観に配慮した都市施設(道路・公園)の整備計画の策定、三重県景観計画に位置づけられた眺望景観保全計画の策定などに取り組んでいます。また、実現した公共事業としては、東海道関宿において防災公園として設計した「百六里庭」(三重県さわやかまちづくり賞【景観部門】受賞)(図1)、村民主体による農村景観整備に取り組んだ「大山田村地域づくり景観整備事業」(国土交通大臣表彰まちづくり功労者受賞)、城下町の散策路を整備した「上野市ウォーキングトレイル事業」、町屋をまちづくり拠点として再生した「伊勢河崎商人館まちづくり舞台」(図2)、城下町の駅前再開発として取り組んだ上野市駅前地区再開発事業などが挙げられます。また、ひとづくりプロジェクトとしては、上述の各種計画づくりの現場を市民参加による公開ワークショップ(図3)として位置づけたり、人材育成に必要なまちづくり学習の教材「まちづくりブック」の編集に関わっています。「まちづくりブック」は、伊勢市と桑名市からの依頼を受け、それぞれ『まちづくりブック伊勢』(学芸出版社)、『まちづくり極意くわな流』(中日出版社)として編集、刊行しています(図4)。

巨大地震対応の防災・減災活動の人材育成プロジェクト

現在取り組んでいる大きなひとづくりプロジェクトとしては、「美し国おこし三重さきもり塾」があります。これは東南海地震などに代表される自然災害への対応が求められる中、三重県の防災・減災活動を担う人材育成のための教育・研究を行う場として、工学研究科内に特別課程を設けたものです。今年度は、特別課程生として19名、入門コース生として47名が入塾して学んでおり、1年後には全員が無事に卒業することを期待しています(図5)。